

日ASEAN ビジネスウィーク

SDGインパクトジャパンのご紹介

SDG
Impact Japan

株式会社SDGインパクトジャパンの概要

企業概要

設立: 2021年1月

資本金: 1億円 (2022年12月末時点)

株主: 創業メンバー、従業員、戦略パートナー

特色

- 金融・サステナビリティ・ビジネスの経験豊富な経営陣
- サステナビリティ領域におけるグローバルなネットワーク
- 世界の投資機会の捕捉と紹介

Signatory of:



事業概要

1. サステナビリティにフォーカスした投資ファンドの組成・運営推進

- 上場株式投資: SFDR第9条に準拠したESGファンド
- ベンチャー投資: グローバルで優れたVCと連携したサステナビリティを追求するベンチャーファンド

2. サステナビリティ向上に貢献する事業のインキュベーション・開発

- 経営陣のネットワークやVCを活用したサステナブルな新規事業の発掘・展開

- 金融機関・企業向けサステナビリティ評価ツール'RIMM'
 - シンガポールのFinTech企業と日本におけるJVを設立し、金融機関や企業に向けたサステナビリティ評価ツールを提供
- カーボン・ニュートラル関連事業: 新興国の脱炭素プロジェクトへの投資、二国間 (JCM) クレジットを活用

3. サステナブルファイナンスのアドバイザー

- サステナブルファイナンスやESGテーマ(気候変動、ダイバーシティ、人権等)の専門家による金融機関・事業会社へのアドバイザー提供

サステナビリティファンド戦略の展開状況

NextGen ESG Japan戦略



AgFunder SIJ Impact戦略



Icehouse Ventures Sustainable Tech戦略



Circular Economy Growth Capital戦略

UNISON CAPITAL

ファンド設立パートナー

dLabアセットマネジメント
あすかコーポレートアドバイザー

AgFunder

Icehouse Ventures

Unison Capital Partners

サステナビリティ目的

サステナビリティ観点の目的を持ったSFDR9条に基づく運営

- 環境(気候変動)、社会、ガバナンス、ジェンダー

食・農の領域でのポジティブ・インパクトの創出

- End Hunger
- Achieve food security
- Improve nutrition
- Promote sustainable agriculture

高成長のサステナブルテックスタートアップへの投資を通じたサステナビリティ促進

- Clean energy solutions
- Alternatives to plastics
- E-waste processing など

新たな技術やデジタルテクノロジーを持つ企業等への投資を通じて持続可能性・サーキュラーエコノミー推進に貢献

- Energy & Resources
- Materials Recovery & Reuse
- Health and Wellbeingなど

投資 スコープ

産業・領域 フォーカスなし

アグリテック、フードテック

サステナビリティテック

サーキュラーエコノミーテック

対象企業 上場企業
中小型株中心

アーリーステージのスタートアップ

アーリーステージのスタートアップ

グローステージを中心とした幅広いステージを想定

地域 日本
(アジアも最大20%程度の可能性)

グローバル
(アジア太平洋地域での事業展開状況や可能性を考慮)

ニュージーランド
(グローバルな事業展開可能性を考慮)

日本、韓国、インド、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド、その他ASEAN諸国

サステナビリティ事業の展開状況

サステナビリティ SaaS 事業



カーボンのクレジット事業



事業設立パートナー

RIMM Sustainability Pte Ltd.

—

サステナビリティ目的、特徴

- 自社のサステナビリティ評価を低コストで
- 質問に答えるだけの簡単な評価プロセス
- 同業他社と比較したESGスコアリング
- 自動作成されるレポートを基に改善・開示
- 担当者へ自動で質問割り当て、チーム機能

- 途上国の環境社会を配慮した電力供給
- パリ協定認定の「質の高い」クレジットの取得に注力
- 途上国のCO2削減を促進するカーボンのクレジットを創出
- JCMを活用することで日本のCO2削減に貢献

産業・領域

フォーカスなし

再生可能エネルギー、省エネルギー、
森林、メタン回収・破壊等
CO2吸収プロジェクト

対象企業

金融機関、事業会社

脱炭素プロジェクト及び
インフラ持株会社

地域

日本

JCM締結国 +
東欧・中央アジアなど

サーキュラーエコノミーの実現： アジア、そして世界は、より循環型経済への対応を迫られています

プラスチック廃棄物問題を解決するために

- 2050年には海洋生物よりもプラスチックの方が多くなる
- 毎年63億トンのプラスチック廃棄物が発生し、その半分以上がアジアで発生している



プラスチック廃棄物に終止符を：低炭素技術で、すべてのプラスチック廃棄物を再利用可能な、商業的に価値のある資源に変える。

都市廃棄物の課題を解決する

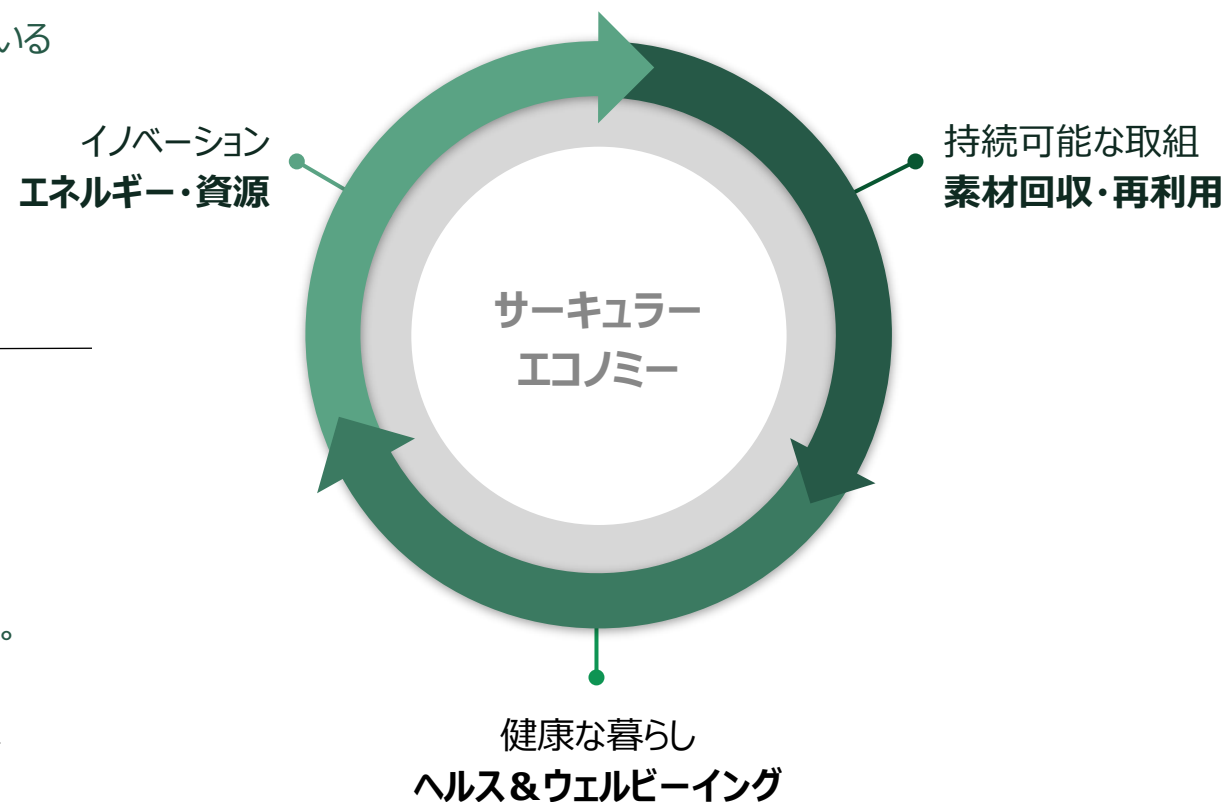
- 年間20億トンの廃棄物が排出され、少なくとも3分の1が環境的に問題がある
- 南アジアでは、回収率が低く、衛生、健康、環境に対するリスクが高まっています。

VC



固形廃棄物からリサイクル可能な材料を回収し、バイオガスを製造する持続可能な方法

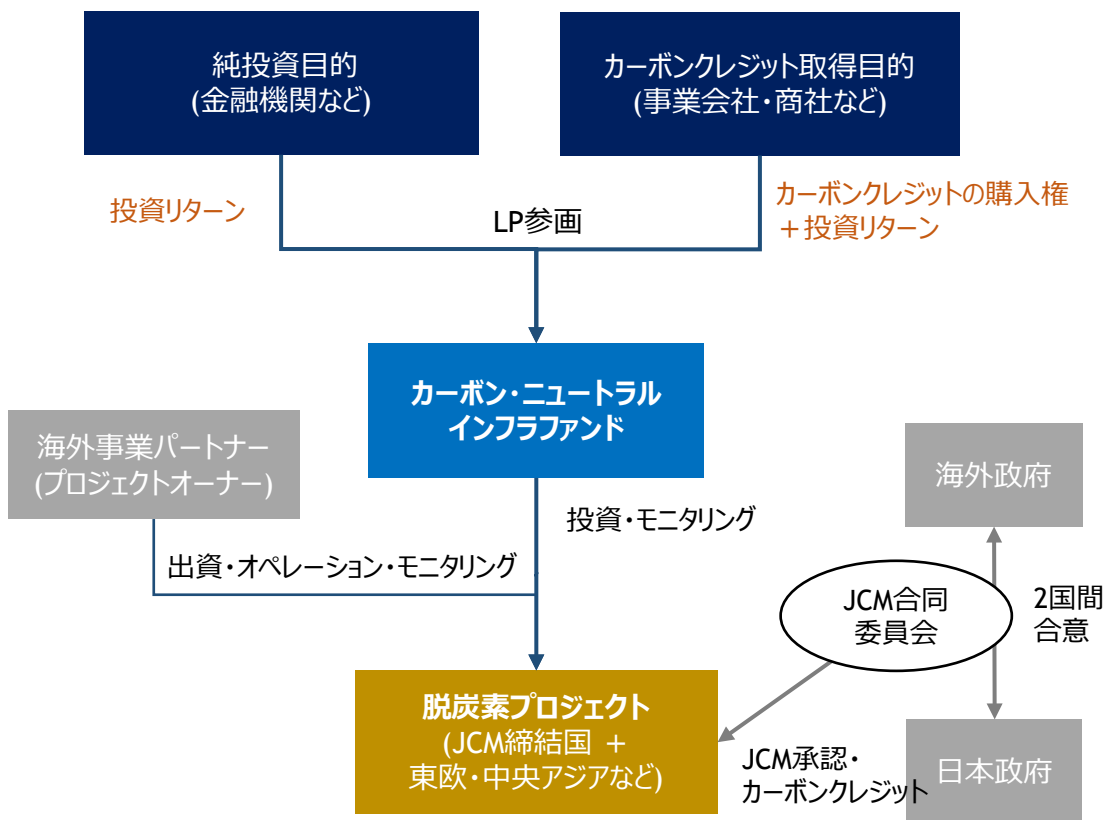
イノベーションの促進



脱炭素トランジションの推進： クライメートファイナンスを通じて、新興国・途上国と日本企業のCO2削減に貢献

脱炭素の推進とカーボンのクレジットの創出を目指すファンドの設立

新興国・発展途上国の脱炭素プロジェクトに日本の資本や技術を動員し、
クライメートファイナンス供給と二国間クレジット（JCM）を創出
カーボン・ニュートラル・インフラストラクチャー・インパクト戦略



*CO₂ creditsの一部は 日本政府・海外政府にも入る

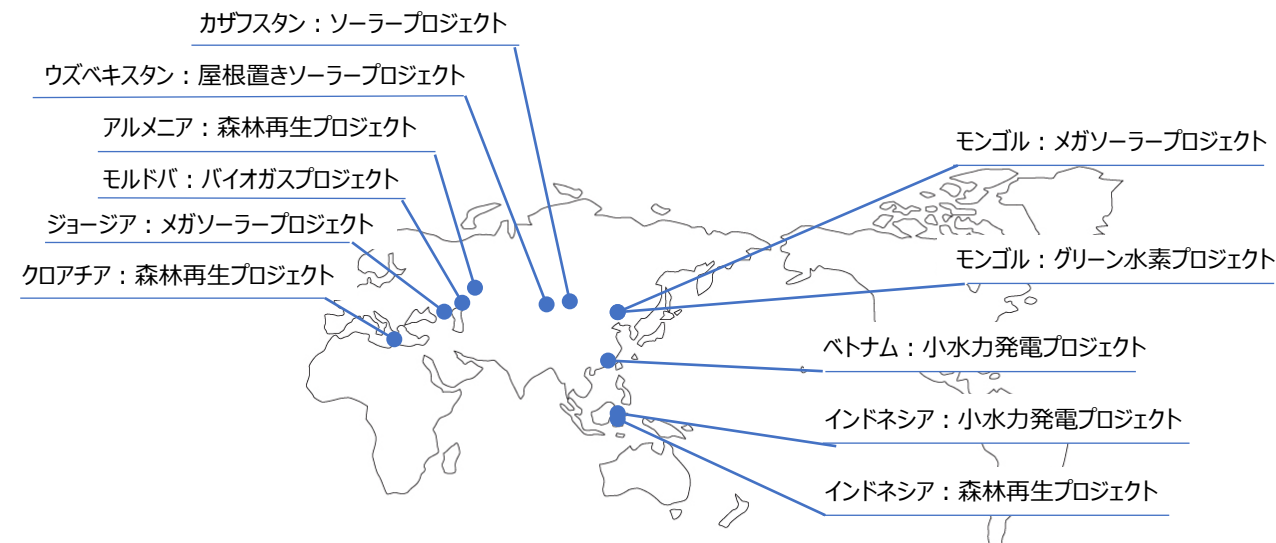
日本と発展途上国のCo2削減目標に貢献

パリ協定準拠のJCMクレジットは、創出されたCo2削減を
日本とパートナー国間で分け合うスキーム

JCMのスキーム



主要なパイプライン・開発検討案件



当資料について

当資料は、株式会社SDGインパクトジャパンが一般的な情報提供を目的に作成した資料であり、特定のファンドへの投資の勧誘を目的としたものではありません。

内容に関する一切の権利は弊社にあります。

弊社の事前の了承なく複製、第三者への配布又は転載等を行わないようお願い致します。

当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。

当資料中のグラフ、数値等は過去の実績値又は「シミュレーション」「バックテスト」などの仮想的パフォーマンス結果であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

本邦投資家が海外投資を行う場合、関係国と日本国との租税条約等の影響で、本資料に掲載される目標リターン等の計算結果は、本邦投資家に課税される税金等の影響を加味した場合と異なる可能性があります。具体的な影響については、各投資家において税務アドバイザー等へお問い合わせください。

当資料中のいかなる内容も、将来の市場動向等を保証するものではありません。

株式会社SDGインパクトジャパン 関東財務局長（金商）第3359号
加入協会： 一般社団法人日本投資顧問業協会